

# 共同研究の経緯と概要

## 仁藤敦史

### 〔目的〕

これまで古代の土地制度史や荘園史は、十分な資料が不足しているため律令法制を制度史的にのみ議論するか、わずかに残された東大寺領の北陸型荘園を古代荘園の一般類型であるとして議論することが多かった。前者はややもすれば実態とはかけ離れた法理念的な抽象的な議論に陥り、後者は開発が新しく、国家権力の介入により成立した特殊な古代荘園であることから一般化には問題が残り、現在ではいずれも方法的に行き詰まりの感がある。もし、畿内に残る非東大寺型の古い荘園の素材として古代荘園図分析の方法論的研究を深化させることができれば、荘園図に描かれた建物・景観・土地利用の実態把握が可能となり、古代氏族の居住形態や氏寺の寺領経営、条里制施行の実態解明などに大きく貢献することができる。

そこで本共同研究では、これまで詳細な分析が加えられていなかった館蔵資料「額田寺伽藍並条里図」（国宝）の多角的分析により荘園図分析の方法論的研究を深化させ、およびその遺跡地である額安寺（奈良県大和郡山田市）周辺に現在まで残る歴史的景観の復原を通じて、五世紀から近世に至る額田部氏・額安寺（額田寺）・額田部地域の歴史を隣接諸科学との学際的検討によって再構成することを目的としたい。

### 〔組織〕（◎は研究代表者、所属は原則として一九九四年度当時）

高橋 学	立命館大学理工学部 助教授
金田章裕	地形変化（古環境） 京都大学大学院文学研究科 教授
上原真人	条里制（歴史地理） 奈良国立文化財研究所 主任研究官
前園実知雄	出土瓦（考古学） 奈良県立橿原考古学研究所 総括研究員
服部伊久男	寺院（考古学） 大和郡山市教育委員会 主任
狩野 久	古墳（考古学） 岡山大学文学部 教授
石上英一	氏族（古代史） 東京大学史料編纂所 教授
山口英男	絵図分析（古代史） 東京大学史料編纂所 助手
森 公章	絵図分析（古代史） 奈良文化財研究所 技官
	氏族（古代史）

◎仁藤敦史 館内・歴史研究部 助手

全体総括(古代史)

黒田日出男 東京大学史料編纂所 教授

絵図分析(中世史)

水野章二 滋賀県立短期大学一般教育 助教

荘園制(中世史)

吉田栄治郎 奈良県立同和問題関係史料センター 指導主事

村落構造(近世史)

岩城卓二 館内・歴史研究部 助手

村落構造(近世史)

浦西 勉 奈良県立民俗博物館 主任学芸員

民俗行事(民俗学)

永嶋正春 館内・情報資料研究部 助教

非破壊分析(保存科学)

研究協力者(ゲストスピーカー)

武久義彦 奈良女子大学文学部 教授

村岡ゆかり 東京大学史料編纂所 技官

岡田英男 奈良大学文学部 教授

吉川真司 京都大学文学部 助手

濱口芳朗 大和郡山市教育委員会 技術吏員

木村法光 宮内庁正倉院事務所 保存課長

藤田裕嗣 徳島大学総合科学部 助教

研究期間

一九九四年度から一九九六年度

経過

研究準備会1 一九九三年五月一〇日(月) 於国立歴史民俗博物館

企画展「荘園絵図とその世界」見学

報告 永嶋正春「額安寺条里図」に見る古代の顔料

研究準備会2 一九九三年一月七日(日) 於奈良県大和郡山市公民館

報告 前園実知雄「額安寺周辺の発掘調査」

額安寺境内および境内図・仏像等調査

現地調査

第一回研究会 一九九四年七月四日(月) 於国立歴史民俗博物館

今後の研究計画の打ち合わせ

資料と研究史の確認(出席者全員)

討論

第二回研究会 一九九四年一〇月八日(土)・九日(日)

現地調査(大和郡山市)

一〇月八日 於大和郡山市公民館

武久義彦「額安寺周辺の地形条件」

服部伊久男「額安寺伽藍並条里図の考古学的検討」

額安寺周辺現地調査

一〇月九日 近鉄平端駅・法隆寺

額安寺周辺斜行道路・堀之内古墳・安堵町資料館・鮑波神社・太子

道・上宮遺跡・成福寺など見学・調査

第三回研究会 一九九四年一月二八日(月) 於国立歴史民俗博物館

永嶋正春「額田寺伽藍並条里図の科学的調査結果について」

—X線透過像・素材・技法など—

村岡ゆかり「額田寺伽藍並条里図の復原模写について」  
本館蔵額田寺伽藍並条里図調査

第四回研究会 一九九五年二月八日(水) 於国立歴史民俗博物館

石上英一「額田寺伽藍並条里図と古代荘園図」

山口英男「額田寺伽藍並条里図の作製過程をめぐって」

金田章裕「八世紀の地目と額田寺伽藍並条里図の記載」

第五回研究会 一九九五年六月一日(土) 於国立歴史民俗博物館

黒田日出男「額田寺伽藍並条里図の絵画史料論的読解」

岡田英男「古代寺院所在の建造物」

第六回研究会 一九九五年一〇月八日(日)・九日(月)

現地調査(奈良市)

一〇月八日(日) 於奈良県大和郡山市教育委員会大会議室

高橋 学「奈良盆地の地形環境分析」

森 公章「額田部氏について」

吉川真司「東大寺山堺四至図」について」

一〇月九日(月) 近鉄奈良駅前〜東大寺境内周辺

「東大寺山堺四至図」現地調査

第七回研究会 一九九六年一月二八日(日) 於国立歴史民俗博物館

浦西 勉「奈良盆地北西部宮座祭礼の変遷に関する素描」

山口英男「額田寺伽藍並条里図」研究の現状と課題」

濱口芳朗「額田寺周辺の発掘調査について」

第八回研究会 一九九六年三月九日(土)・一〇日(日)

於国立歴史民俗博物館

三月九日(土)

討論 次年度の研究会計画・報告書の体裁について

三月一〇日(日)

上原真人「額田寺出土瓦の検討」

吉田栄治郎「額田部村の近世・近代—額安寺観の変遷から—」

第九回研究会 一九九六年六月二日(日) 於国立歴史民俗博物館

木村法光「正倉院宝物の布製品について」

永嶋正春「正倉院宝物にみる彩絵的利用について」

第十回研究会 一九九六年九月二日(日)・三日(月)

奈良県現地調査

九月二日(日)

「加守廃寺周辺」現地調査

加守廃寺・石光寺・只塚廃寺・当麻寺・鳥谷口古墳など

九月三日(月)

西大寺

西大寺本「大和国添下郡京北班田図」調査

藤田裕嗣「大和国添下郡京北班田図について」

「大和国添下郡京北班田図」現地調査 奈良市秋篠町付近

第十一回研究会 一九九六年二月一四日(土)・一五日(日)

於国立歴史民俗博物館

二月一四日(土)

仁藤敦史「額田部周辺の古代氏族」

狩野 久「鮑波評について」

二月十五日(日)

前園実知雄「飛鳥・奈良時代の和の古代寺院」

水野章二「額田部周辺の中世」

報告書の概要

第十二回研究会 一九九七年二月十五日(土)・十六日(日)

於国立歴史民俗博物館

二月十五日(土) シンポジウム

I 「額安寺条里図」の再現と寺院経営

— 研究の経過と意義 —

司会—石上 報告—石上・山口・永嶋・黒田

II 中世以降の額田部地域

司会—黒田 報告—吉田・浦西

二月十六日(日)

III 額田部氏と鮑波評・条里制

司会—狩野 報告—狩野・森・仁藤

IV 考古学・地理学からみた額田部地域

司会—前園 報告—服部・前園・金田

報告書の概要

### 「成果と反省」

初年度には考古学・地理学・科学分析・絵画技法・古代史などの分野からの報告をおこなった。そして、本館蔵「額田寺伽藍並条里図」の調査および額安寺周辺の現地調査をおこなうことができた。その過程で、絵図に描かれた現地地形と条里の関係、とりわけ斜行条里の問題、さらには大和川の当時の流路の確定、ため池・墳墓の位置・表記方法などが

議論になった。航空写真・小字地図などの活用により多くの新たな知見を得ることができたことは大きな収穫である。

第二年度には考古学・自然地理学・絵画資料論・建築史・古代史・民俗学・近世史などの分野からの報告をおこなった。そして、「東大寺山堺四至図」との比較検討および東大寺周辺の現地調査をおこなうことができた。絵画資料論と建築史の分析からは、額田部氏の居住区画の所在、古代豪族の支配地と「門」記載、植生のあり方などが議論された。また、古代史においては木簡における額田部と額田の表記の問題、道慈の出自、額田部氏の二つの系譜の存在などが問題となった。自然地理学の分析では、河川周辺の低地では古代の自然環境が残り難いことが指摘された。「東大寺山堺四至図」の現地調査では絵図の記載と現地との対応関係が多く残されていること、瓦散布地の発見など多くの新たな知見を得ることができた。

最終年度には、「額田寺伽藍並条里図」と記載様式が類似する「京北班田図」の現地調査、さらには奈良盆地における氏寺の存在形態を比較するため、加守廃寺周辺の景観を調査した。研究報告としてはまず正倉院宝物布製品との比較や彩画的利用についての考察を行い、額田部周辺の古代氏族や鮑波評の検討、さらには額田寺文書の検討や荘園支配の実態などを中心に中世史分野からの報告をおこなった。最終的なまとめとしてシンポジウムを開催した。これにより荘園図および額安寺周辺地域史の多角的な分析により、多くの成果が得られた。大和国における立郡の過程において、平群郡は広瀬郡・忍海郡とともに王権直轄的な性格が強く、特殊なあり方をしていいること、額田部氏にはいくつかの系統が存在し、職掌の違いや盛衰があること、絵図作製の契機として称徳朝の寺院保護や氏族政策との関係などが指摘された。

研究成果の集約方法については、基本資料の提供・絵図の分析・地域の概観を三本柱として構想しており、個別論文の集成だけではなく、シ

ンポジウムの記録を掲載し、これまでの成果と残された課題についての総括をおこなうとともに、絵図釈文・額田部氏関係史料・額安寺関係史料・考古資料・論文目録などの基本資料の集成もおこなった。

歴史的景観の残る現地においてフィールドワークが可能である点、館蔵資料として絵図の分析が期待できる点、この二点が当共同研究においては大きなメリットであった。これにより歴史学・考古学・民俗学だけではなく古環境・歴史地理・保存科学・絵画技法などの隣接諸分野との協業が比較的容易であったことは指摘できる。研究会開始の前提に復原複製を企画展で展示した。その過程で多くの問題に直面し、新たな知見も得られたが、料布・彩色をはじめ三年間の研究会を通じても解決できなかった課題も多い。それらの詳細は共同研究員の一人である山口英男氏による『日本古代荘園図』（東京大学出版会 一九九六年）でのまとめが現状での成果と課題を示している。

共同研究の副産物としては、絵図の復原複製の製作および製作過程を記録した三〇分のビデオテープ、さらには大和郡山市教育委員会が中心となった第一回こおりやま歴史フォーラムとして「よみがえる古代の額田部―国宝「額田寺伽藍並条里図」の世界―」が一九九五年一月に共同研究のメンバーを中心に現地で開催されたことがあげられる。

(国立歴史民俗博物館歴史研究部)